

学修ポートフォリオを活用した学生の自己省察の重要性

- 日時 2025年9月9日(火) 13:10~14:40
- 講師 田中 正弘氏
 - ◆筑波大学 准教授
 - ◆中央教育審議会大学分科会 臨時委員 (文部科学省)
 - ◆「全国学生調査」に関する有識者会議 委員 (文部科学省)
 - ◆質保証における学生参画のあり方に関する調査研究部会 会員 (大学基準協会)
- 会場 対面実施のみ 共通講義棟東 E304講義室
- 対象 学内教職員、非常勤講師、特任助手、大学院生
- 備考 後日の動画視聴については、現在講師と調整中です。動画撮影が可能な場合、改めて周知いたします。

企画趣旨

今年度より、「授業改善アンケート」は「科目別学修振り返りアンケート」へ名称を変更し、従来の授業評価を目的としたものから、学生自身が学修を振り返ることを目的とした内容へ見直しました。学生の回答内容や各科目の集計結果、さらに教員からのコメントを学修ポートフォリオに蓄積し、これを学生と教員のコミュニケーションツールとして活用する体制を整えています。これにより、学生は授業単位の振り返りから半期毎の振り返りへとつなげ、自律的な学修者となることを目指しています。

また、本アンケートの有効性を高めるため、授業時間内にアンケートを実施する際には、自己省察の意義や学修ポートフォリオの重要性について説明を行うことが重要となります。そのため、関係者を対象とした学習会を開催いたします

申し込み方法・問い合わせ先

下記URL等からお申し込みください。

<https://forms.gle/kMsmKZ9g4B9NBDVP7>

《お問い合わせ》

名城大学 大学教育開発センター

TEL: 052-838-2033 (内線: 2659)



名城大学 第21回 FD・SD 学習会 実施報告

1. 実施概要

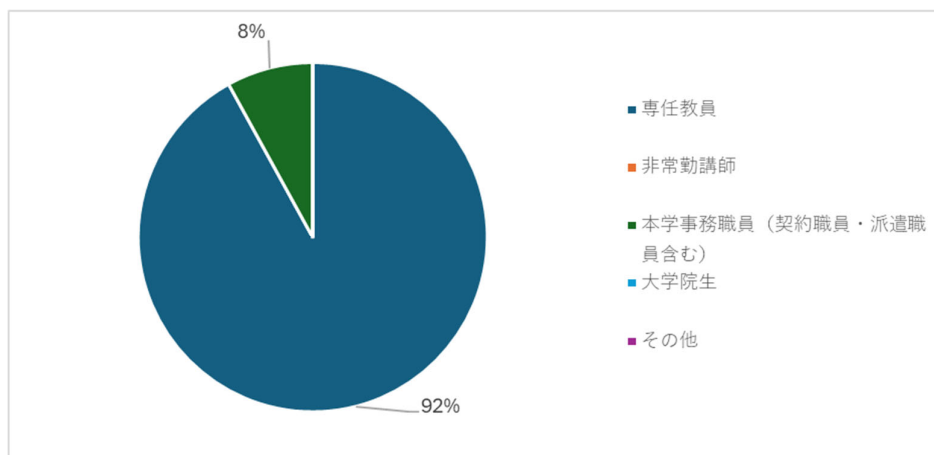
- 日 時：令和7年9月9日（火）13：10～14：30
- 場 所：共通講義棟東 E304 講義室 対面開催
- テ ー マ：学修ポートフォリオを活用した学生の自己省察の重要性
- 講 師：田中 正弘 氏（筑波大学 准教授）
- 参加者数：48人（専任教員38人、事務職員9人、大学院生1人）
※オンデマンド視聴者数 24人（専任教員23人、大学院生1人）

2. アンケート方法等

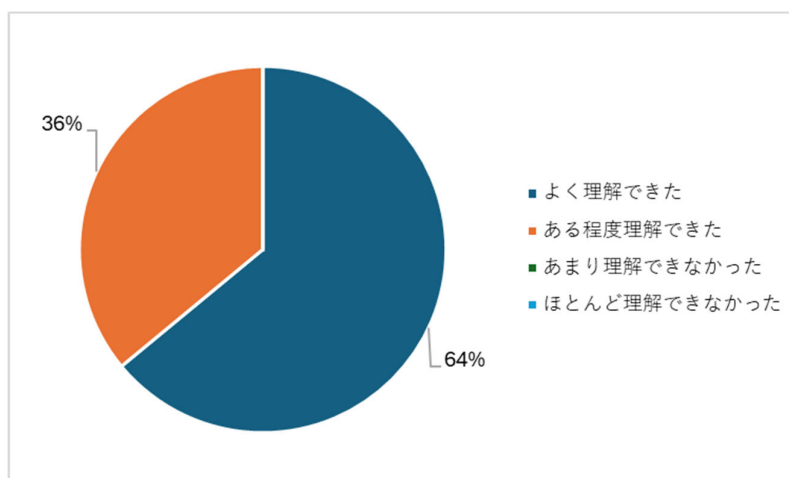
- アンケート方法：Google フォーム
- 質問項目：以下のとおり
 - ①所属をお知らせください
 - ②本日の内容は、理解できましたか？
 - ③本日学んだことを、学部や個人の教育活動に活かしてみたいと感じましたか？
 - ④本学習会の満足度について教えてください
 - ⑤講演の感想をお聞かせください
 - ⑥何が決め手となって、この学習会に申し込みをされたかお聞かせください。
 - ⑦テーマ、ご希望の講師(学内外問わず)について、ご意見ご希望がありましたらお聞かせください。
- 回答者人数(質問①～④)：25名
- 質問⑤～⑦について主な意見のみを示しています。(※一部抜粋・改稿を含む)

3. アンケート結果

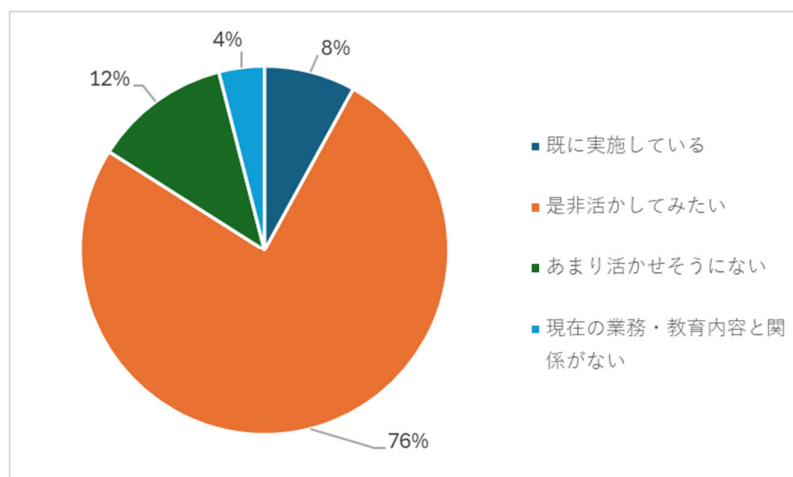
① 所属をお知らせください。



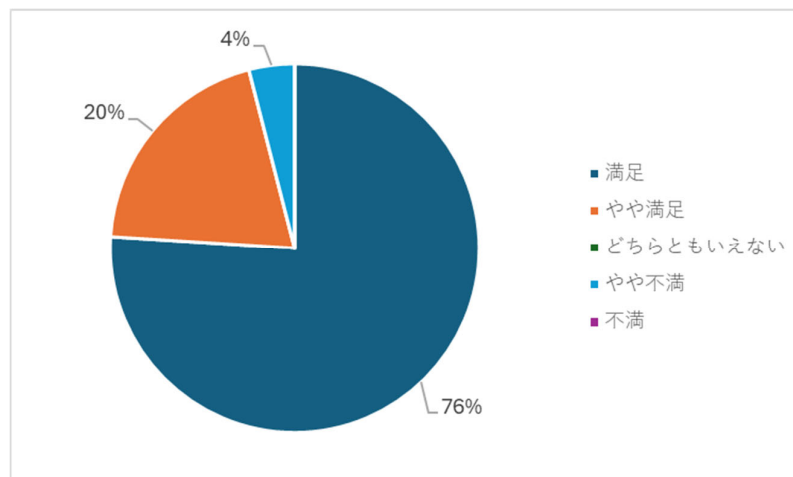
② 本日の内容は理解できましたか？



③ 本日学んだことを、学部や個人の教育活動に活かしてみたいと感じましたか？



④ 本学習会の満足度について教えてください



⑤ 講演の感想をお聞かせください

- "ゼミナールにおいて、他の大学ゼミとのディベートに取り組んでいるが、その振り返り活動に活かしたい。これまで、今後の課題を自由記述してもらっていたが、細かい項目を教員で設定した上で、振り返りすることで、教育効果をあげたい。
論理的であったか、根拠を正確に提示できたか、制限時間のなかで時間配分は適切か、スライドの見やすさの程度はどうか、自らの言葉で話しているか、
など項目を指示して、自己省察に取り組ませたい。
- "学習ポートフォリオについて理解が深まりました。ただ、学生一人一人とコミュニケーションをとり、コメントを返していくことは、現実的に難しいと思いました。学生の自己省察、自律的な学習を伸ばす「学生同士でできる効果的な方法」を考えたいと思いました。
教員の評価のうち、研究やそれに基づく業績が大きなウエイトをしめ、授業の評価のウエイトは非常に小さいと思います。例えば、教員採用では研究業績を見られますし、研究費の取得にも業績が必要です。授業も力を入れたいけど後回しになっている現状です。時間をかけなくても効果が上がる手法について考えられればと思います。もしくは、教員の評価において授業がしめるウエイトを大きくしていくことも、根本的な方法かと思いました。"
- 学修ポートフォリオが大規模の講義にはあまり向いていないと明言されたことが非常に印象深かった。大変わかりやすい講演でした。
- "これからの時代学習成果について、直接評価と間接評価の双方が求められる中で、間接評価をより強化できる学習会となった。認証評価などの業務で活用していきたいと思う。
- ポートフォリオの位置付けが把握できました。下位層の学生というよりは上位層にアプローチするような観点になっているのが実際と認識しました。
- 学修ポートフォリオに対するこれまでの考え方を改める機会となり非常に良いお話を聞くことができました。
- 学修ポートフォリオは、学生と教員のコミュニケーションを確保するための手段であるということがよく理解できました。同時に、そうしたコミュニケーションを充実させるには、教員個人としても、また大学全体としても工夫や検討を要する事項が多いことも、お話を聴きながら改めて認識でき、その意味でも有益な学習会でした。
- "教育学の視点から、学修ポートフォリオについての話を聞くことができ、学生数の多い私学が、どのようなシステムを構築するかの参考になる内容で大変有意義でした。
実習や実験に対して有効であることは承知していましたが、講義型が多い大学教育の現状においては、学修ポートフォリオを活用することも前向きに考えていく必要はあると思います。全ての科目を対象にするものではないとお話もありましたが、逆に「何ができるようになったのか」の視点では、DPに繋がることから全ての科目にどのように取り入れるかという考え方もあって良いと感じました。
また、教育改革を求められるなかでは、教員の講義スタイルをアクティブラーニングを取り入れるなどして、学生が自立して学修するように仕向ける工夫も必要だと思います。
近年、学位プログラム評価が問われるなかで、DPに対する達成度をどのように評価するのかといった視点

も必要だと思いますので、学修プロセスを知るためには、IRにも繋がるとは思いますし、科目レベル、プログラムレベルでのポートフォリオの活用を考えることも必要かと感じました。"

- ・現状の本学のポートフォリオのシステムでは、うまく対応できなさそうなことがわかった。特に教員と学生とのコミュニケーションツールとして進める場合、なんらかの閲覧の可否が不可避である。ただし、各授業のなかで、WebClassの課題を使って、毎回の授業のリアクションペーパーを書かせることで、フィードバックを行っており、ある種の学修のプロセスの把握はそこで行われているとも考えられる。
- ・予想していた内容とは異なるが、実情がよくわかる面白い公演でした。学習ポートフォリオを実用的に運用するには、科目を限定（演習、実験など）して、顔がわかる状況で、かつ、対面で直接話すには支障がある（ほかの学生には聞かれない）などの条件で行うべきだと思います。
- ・教員に学修ポートフォリオの閲覧権限がない現状では、それを生かしたゼミ生の指導ができないため、改善が必要であると感じた。
- ・万人向けのツールではないという点が明確に説明されており、納得できる内容でした。
- ・ポートフォリオの考え方、利用の方法を知ることができました。
- ・学修ポートフォリオおよび自己省察についての考え方等が理解できた。
- ・教育学者としての学修ポートフォリオに対する本音をうかがうことができたのがなにより興味深く、それが現場感覚とも合致することを確認することができた。
- ・ポートフォリオと言われても、どのようにすれば良いか、どのように学生さんに指導すれば良いかがわからずにいましたが、本日のご講演で具体的なイメージを持つことができました。演習や実習に向いているということなので、まずはゼミで取り入れてみたいと思います。
- ・参加してよかったと感じることができる講演会でした。
- ・デジタル化との相性についても伺いたかった
- ・全員、一致してやらなくても という所は、大学として進めて欲しい。
- ・新しい発見もあり、参加して良かった。
- ・成績上位者の指導を中心に扱ったものでした。教育学的観点から、本質的な学修ポートフォリオは、成績下位層の指導には適さないとのことでした。私立大学教育で課題とされるところは成績下位層の学生に対する指導になっているため、その解決に向けた見解や議論が聞いてみたかった。
- ・学習ポートフォリオについて理解が深まった。おそらく、学習ポートフォリオを丁寧に書ける学生は成績上位層と思われる。私の受け持っている科目では「学生実験」等でできそうだったと思った。
- ・学修ポートフォリオの学生による作成・教員による活用を、すべての学生に関して実際の授業運営に落とし込むのは難しいと感じました。科目別振り返りアンケートとは別に、少人数の授業、あるいは、大人数授業における希望者のみでの利用から始めるのが、現実的だと思います。

⑥ 何が決め手となって、この学習会に申し込みをされたかお聞かせください。

- ・どう言う意見があるか知りたかった。
- ・私自身が不案内な分野なので。弱点補強のためです。
- ・FD・SD学習会にはできるだけ参加しようと思っているから。
- ・IRや認証評価に関する業務を担当しているため、業務に活用できると考えたため。

- ・自身の学生指導能力の改善, それに伴う手段の理解
- ・メールで教えていただいた学習会のテーマが、以前から気になっていたものでしたので、参加させていただきました。
- ・「自己省察の重要性」というタイトルを見て、知りたいと感じたため。
- ・ポートフォリオをいかに効果的に使えるかを知りたかったため。
- ・学部のFD・SD委員を担当しているので、知識を得るために参加しています。
- ・アンケート内容の変更
- ・今年度実施した科目別学修振り返りアンケートと関りがありそうだったため
- ・学内メールによる開催案内
- ・学習成果の可視化という面で参考になればと考えたため参加をした。
- ・学修ポートフォリオの使い方をより深く知りたいため。
- ・講師の方の話を聴いて見たかったから
- ・私立大学に対する学修ポートフォリオの活用法について情報が得られるかと考えたため。

⑦ テーマ・ご希望の講師(学内外問わず)について、ご意見ご希望がありましたらお聞かせください。

- ・やる気のない学生の指導方法、実践例について。
- ・100点を目指すのではなく、今の授業から教員の時間的コストを増やさずに10点上げられるような、すぐに取り入れられる方法があれば知りたい。
- ・遠隔講義における講義動画の作成のコツを聞きたい
- ・本学が展開しているポートフォリオの活用法と改善点について
- ・本日の準備にてご苦勞様でした。質問等も多く、大変有意義だったと思います。いろいろと課題も出てきたことはよいとは思いますが、解決していくこともなかなか難しいと感じております。次はジャブ程度で「学生参画」でしょうか。今後ともよろしく願いいたします。
- ・大人数授業における学修の振り返りをどう構築していくかが大きな課題となっているので、今後はそういった話をうかがうことができれば非常にありがたい。
- ・成績下位学生のモチベーションのあげ方